

柏崎刈羽原発で事故があった場合、市も「避難の困難性」認める

上越市が原子力防災対策の見直し案を議会に提示

市議会災害対策特別委員会が15日に開かれ、この日の特別委員会では、上越市地域防災計画の原子力災害対策編の見直しについて、防災危機管理部長、笠原防災計画課長が説明し、質疑が行われました。

原子力災害対策を実施すべき地域については、上越市全域が対象です。柏崎刈羽原発から距離に応じて即時避難区域（PAZ）、避難準備区域（UPZ）、屋内避難計画区域（PPA）が図示されましたが、約20万人の上越市民のうち避難準備区域に住む人たちは約1万8700人ということでした。計画では、県内市町村、県、国などと連携して「市民を被ばくから守る計画的な広域避難」の実現をめざすということで、緊急時モニタリング設備と体制の整

備、緊急医療体制の整備、計画的な広域避難を実現していくとのことでした。

● 今回の説明で注目した主な点は、

● 県と市が分担して広域的なモニタリング体制を構築する。モニタリングポスト（放射線を定期的に、または連続的に監視測定する装置）は、校庭、公園、側溝など身近な場所のモニタリングを行う。

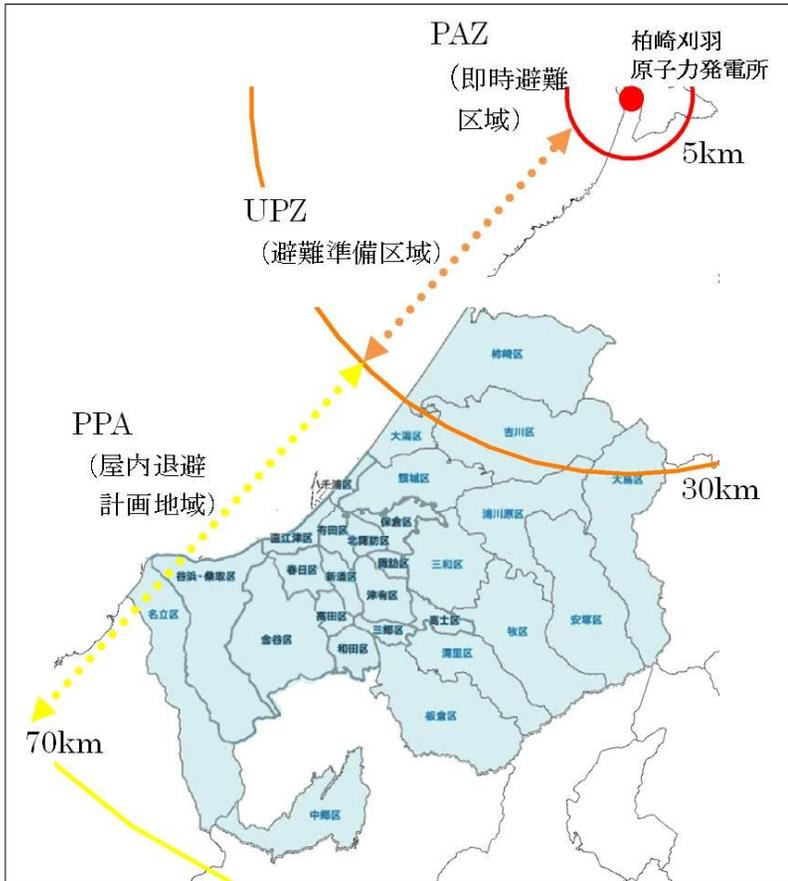
● 屋内退避を基本とし、緊急時モニタリングの結果によって段階的に避難を開始。避難は町内会単位で行う。避難先はUPZ30キロ圏外の他市町村を前提とし、SPED I ネットワーク

も活用し必要に応じて県外避難も。避難の交通手段としては自家用車を基本とするが、バス、鉄道、船舶等の多様な避難手段を確保する。

● オフサイトセンターに設置される災害対策本部には副市長など当市スタッフも入る。

質疑では日本共産党議員団の上野公悦委員が、「一人の被ばく者を出さずに安全に避難できることが大事だが、避難を想定している人の数からいって到底不可能ではないか。良く作られてはいるが、机上の空論という気がする。再稼働を認めないという立場に立たないと実効性のあるものにはならないのではないか」と質問しました。

笠原課長は、「町内会単位で避難するにしても、避難は困難を極める。実効性のあるものにするにはこれから詰めていかねばならない。避難出来るのかと言われても、今の段階で出来るとは言いえないが、何とか実効性のあるものにしていかねばならない」と答えました。



3月定例議会の日程

新年度一般会計予算などを決める3月議会が27日から来月25日まで開催されます。19日の議会運営委員会で下記の通り日程が決まりました。会議開始時間はいずれも午前10時からです。誰でも気軽に傍聴できますので、ぜひお出かけください。お待ちしております。なお、私の所属する委員会は総務委員会です。

月 日	会議名	会議室	備考
2月27日 (水)	本会議	議場	提案説明 総括質疑
2月28日 (木)	本会議	議場	総括質疑
3月01日 (金)	建設企業委員会	第1委員会室	付託案件審査
3月 4日 (月)	建設企業委員会	第1委員会室	付託案件審査
3月 5日 (火)	文教経済委員会	第1委員会室	付託案件審査
3月 6日 (水)	文教経済委員会	第1委員会室	付託案件審査
3月 7日 (木)	厚生委員会	第1委員会室	付託案件審査
3月 8日 (金)	厚生委員会	第1委員会室	付託案件審査
3月11日 (月)	総務委員会	第1委員会室	付託案件審査
3月12日 (火)	総務委員会	第1委員会室	付託案件審査
3月13日 (水)	予備日		
3月14日 (木)	本会議	議場	一般質問
3月15日 (金)	本会議	議場	一般質問
3月18日 (月)	本会議	議場	一般質問
3月19日 (火)	本会議	議場	一般質問
3月25日 (月)	本会議	議場	採決

春よ来い 第二四一回 魚拓に囲まれて

毎朝、その日の段取りをして動き始めていますが、その段取りとまったく違った動きをしなければならぬ日が一年に何回かあります。今月の一日はそういう日になりました。板倉区の旧板倉町議、長嶺雄二さんが朝八時頃亡くなり、夕方にはお通夜という事態になったからです。

長嶺さんの家は昨年三月、大規模な地滑りでつぶされました。いまだ住宅の再建が出来ず避難生活をしていますが、雄二さんの死で改めて被災したことの大きさを思いました。

通夜式は、妙高市新井の「虹のホールあらい」で行われました。時間があまりない中で行われたにもかかわらず、これまで私が参列したいくつもの通夜式の中でも強く印象に残るものでした。

まずお経、焼香が終わってからの西蓮寺のご住職の話です。一家を背負っての雄二さんの苦勞、町議時代の頑張りなどについて、とつとつと語られました。

雄二さんはお父さんを早く亡くしてしまっています。ご住職は、「父親と早く別れ、大おぼあちゃん、お母さんと次々と亡くされ、葬式の繰り返しだった。苦勞されたことと思う。思い出せば胸がいっぱいになる」と語りました。私にはお父さんが亡くなられた当時のことは一切分かりませんが、ご住職は、雄二さんのいろんな苦勞を見聞きされていたのでしよう。また、ご住職は、「元氣な頃の活躍ぶりは一つひとつ、私の胸に刻まれている」とも話されました。

私が思い出したのは昨年三月の大災害です。亡くなったお母さんの壇引きが終わらないうちだったと思います。長嶺さんの家は大規模地滑りに巻き込まれ、最初に押しつぶされました。自分の家がミシッ、ミシッという不気味な音を立てながら引き裂かれ、つぶされていく、雄二さんにとってどれほど辛かったことか。

でも、通夜式が終わってからは、棺に入った雄二さんの顔を見に行き、雄二さんの人生は辛いことばかりではなかったことを知りました。

びっくりしたのは、雄二さんの棺の両脇に彼が大好きだった釣りの成果、魚拓がずらりと並んでいたことです。鯛やヒラメ、それも体長七〇センチ九〇センチという大型です。一番大きかった魚拓には、「平成九年六月一日、午後七時三〇分。直江津沖。

平目、九キロ」と書かれています。雄二さんが所有しているモーターボートの写真も飾ってあります。うーん、こりやすごといと思いました。東山寺という山間部で生まれ育った雄二さんがこれほど海に愛が、釣り好きだとは驚きました。

一緒に活動をしている何人かの仲間とともに雄二さんの思い出話をしました。お連れ合いも加わった話の中では、釣った大きな鯛は光ヶ原の牧場での懇親会に持ち込み、刺身をみんなで食べた、子ども会でも魚を持ち込んだことがある、病室では大好きなベンチャーズの曲を大きな音をたてて聴いていた、などといった話が次々と出されました。話が弾んだものから、通夜食のこともすっかり忘れてしまったほどです。私が知らなかった雄二さんのことを初めて知って、とてもうれしくなりました。

私たちがわいわい話をしているそばには、自分の特技を生かし、みんなとともに楽しく活動していた雄二さんがいました。もちろん彼は棺の中です。がんに侵された片方の目は眼帯で覆われ、もう一方の目はちよつとだけ開いていました。「よつ、ご苦勞さん。ありがとね」市政レポートを彼の家に届けに行った時と同じ顔でした。

4月に設立した会社で、頸城区西福島にあります。頑張ってもらいたいですね。

国保人間ドックの助成、減らさないでください！

上越市はこのほど、新年度の国民健康保険人間ドック助成事業の助成額が、2万円から1万円に引き下げられる見通しであるとの連絡をこれまで助成を受けていた人たちにしました。これにたいして全日本年金者組合上越支部（長谷川正支部長）は19日、引き下げをしないよう市長に要望書を提出しました。

上越支部の役員の方々は、「高齢者は、昨今の長引く不況の中で、年金が引き下げに加え、介護保険料の大幅引き上げ、国保税の引き上げなど、経済的な事情がますます厳しくなっており、必要な医療にすら足が遠のくといった状態に追い込まれている。ぜひとも現状の2万円助成を維持してほしい」と訴えています。党市議団でもこの問題を重視してとりあげます。



議案説明資料に記載されているものです。3月議会でこの指定管理者の案件など関連議案が承認されると、あさひ荘は7月から再開されます。

議案説明資料によると、指定管理の公募の応じたのは(株)クックライフのみで、指定管理者選考委員会は2月5日、全員が「適当と評価した」といいます。

管理運営方針では、①優れた泉質の温泉提供による地元及び周辺区域からの誘客、②地産地消をテーマにした飲食の提供、③地場野菜や日用品を扱うアンテナショップの開設とそのショップを拠点とした地元商工会の情報発信・利用促進を営業の柱に据えています。

(株)クックライフは昭和61年

あさひ荘指定管理者は(株)クックライフで提案

大山温泉あさひ荘の指定管理者について、上越市は19日、弁当、惣菜等調理品の製造並びに宅配を行っている(株)クックライフに指定する考えであることを明らかにしました。これは同日配布された3月議会委員会

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	2月13日(水)	2月20日(水)
上越南消防署	0.030	0.030
上越北消防署	0.057	0.057
新井消防署	0.040	0.040
頸北消防署	0.060	0.060
頸南消防署	0.050	0.043
東頸消防署	0.050	0.037
高士分遣所	0.060	0.047
名立分遣所	0.043	0.055